

一般社団法人

千葉県言語聴覚士会ニュース



NO. 50 2016年3月26日

目 次

特別企画 創刊50号を記念して	1	第10回リハ公開講座案内	9
平成28年度総会案内	2	施設紹介	10
千葉県P・O・S連携推進会議発足	3	臨床こぼれ話	11
学術局より	5	きこえに関するひとくちコラム	12
生涯学習プログラム報告	7	各委員会・作業部会から	13
認知症専門職研修報告	8	事務局より	14
聴覚障害委員会・小児言語委員会		理事会・委員会等議事録	16
合同研修会・情報交換会報告	8		

祝 ★☆☆ 特別企画 ★☆☆ 祝

「千葉県言語聴覚士会ニュース」 創刊50号を記念して

千葉県言語聴覚士会 初代会長
君津中央病院 村西 幸代

「千葉県言語聴覚士会ニュース」創刊50号おめでとうございます。千葉県言語聴覚士会が発足して15年が経過し、今までその発展を支え、尽力を注いで来られました理事会、会員のみなさまに心よりお祝いを申し上げます。

千葉県言語聴覚士会が発足したのは2001年6月です。そしてその年の1月に、それまで千葉県で障害児・者の言語訓練等に心血を注いで来られていた、7名の言語聴覚士やことば・きこえの教室の先生が世話人となり、初代理事となった、高橋典子氏、田辺佳子氏、和泉澤光子氏、竝木美恵子氏、竹中啓介氏、根本達也氏、神作暁美氏と私にお声かけを頂きました。

当時の私たちは（少なからず私は）、千葉県言語聴覚士会の役割である「職能」などといった事には全く関心がなく、「いったい集まって何をするのだろうか？」といった状況でした。それでも、会長名を拝命し、「会則」を作らなくてはとか、「第1回総会」を開催しなくては、といった現実的目標がたった時から、「これは大変な事になってしまった！」と引き受けた事の重大さに、恐れおののいておりました。

理事会は、通常勤務が終了したウィークデーの19時30分から23時過ぎまで行われ、日をまたぐ日もたびたびでした。当時は予算もないため、理事はみんな手弁当で、会場も費用のかからない、千葉大学

付属病院の会議室をお借りして開いておりました。そのため鴨川市や館山市から集まる理事は、帰宅時には高速道路のパーキングエリアで仮眠をして帰宅されていた方もおりました。それでも、「診療報酬の改定をいち早く会員に伝えたい！」「言語聴覚士の業務の実態を調査し、働く環境を少しでも良いものにするための働きかけをしたい！」「日本言語聴覚士会とより良い連携をとり、千葉の現状を全国に発信することで、全国の言語聴覚士会と連携をとりたい！」など、理事会一同で「職能組織」の役割を模索していたように思います。

当時の千葉県言語聴覚士会ニュースは、会長の挨拶と、研修会及び理事会の報告が中心でした。その頃はまだ、「パソコン」がそれほど普及していなかったので、「ワープロ」に入力した原稿を印刷して持ち寄り、理事会で協議を行いました。理事会では、寄せられた原稿の誤字脱字の修正から、文の校正も行いました。せっかく労力を割いて寄稿された原稿を、校正する事にためらいのあった私は、「そのまま掲載すること」も考えました。しかし当時、教員をされていた理事の方に「せっかくご多用の中寄せて頂いた原稿だからこそ、きちんと校正を行い、後で読み返して頂いた時に『良いものが出来た』と思ってもらえるような原稿にする」という姿勢に、「本当の優しさ」を学ばせて頂きました。出来上がった原稿は、編集担当の理事が自宅の印刷機で印刷し、休日に学術担当、事務担当の理事が集まり、コピー機で印刷し、ホッチキスで留め、袋詰めして郵送をしておりました。本当に手塩にかけた愛情たっぷりのニュースでした。

今や当たり前になっている「メールマガジン」や「ホームページ」も当時はとても革新的なもので、他の都道府県士会の集まりに行くと「千葉は凄い！」と毎回のようにお褒めの言葉を頂き、低い鼻が少し高くなった事を覚えております。これもひとえに、いち早く「ホット」な情報を会員に届けたいといった、事務局や社会局を担当した理事の思いの上にありました。

当時を振り返るとき、あまりの大変さに「記憶がまばら」になってしまった所が多々あります。しかし今思えば、同じ ST でも、医療・福祉・教育と、さまざまな立場で働く者が集い、それぞれの立場から、自らの違いや、至らない点を学ばせて頂く事で、人として育ててもらったと深く感謝しております。

今の千葉県言語聴覚士会ニュースを観ると、本当に立派で綺麗になり、内容も豊富になりました。「千葉県言語聴覚士会ニュース」の創刊 50 号を振り返る時、寝食を惜しみ、休日すらも考えずに、ひたすら私たちの職域を守るために頑張ってきた歴代の理事の方々の努力や苦労が偲ばれます。「職能って何？」とか「職域を守るって何？」と言った声が聞こえて来る事が時々あります。私たちが何気に毎日行っている「言語聴覚士」という仕事は、自らを顧みず「誰かのために」がんばってくれる人がいるから「守られているのだ」という事を改めて考えて頂ければと思います。そして今がんばってくださっている理事の方、きっとこれからがんばってくださる若い会員の方に、感謝とエールをお送り致します。

◇ 平成 28 年度総会案内 ◇

第 5 回総会のお知らせ

一般社団法人千葉県言語聴覚士会第 5 回総会、及び平成 28 年度第 1 回研修会を 5 月 29 日（日）に開催いたします。

法人格を取得して 5 年目となります。職能団体として、言語聴覚士に対する一般市民への啓発活動をすすめるとともに、社会的ニーズにこたえるための活動をさらに充実させていくことが必要です。総会は今

後の方向性を決める重要な場ですので、会員の皆様にはご出席いただきますよう、お願いいたします。

総会後には第1回研修会を開催いたします。今回は「脳損傷者の自動車運転再開支援」をテーマに、化学療法研究所附属病院リハビリテーション科部長の 武原 格 先生にご講義をいただきます。脳損傷者の自動車運転再開に向けた取り組みについて、貴重なお話を伺うことができる機会です。皆様お誘い合わせの上、ご参加くださいますよう併せてお願いいたします。

日時：平成28年5月29日（日）

13：00～14：00 一般社団法人千葉県言語聴覚士会第5回総会

14：15～15：45 平成28年度 第1回研修会

「脳損傷者の自動車運転再開支援」

化学療法研究所附属病院リハビリテーション科部長 武原 格 先生

15：50～16：40 懇親会

場所：千葉市文化センター 9階 会議室Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

◇千葉県 PT・OT・ST 連携推進会議発足 ◇

会長 吉田 浩滋

平成27年1月11日、千葉県理学療法士・作業療法士・言語聴覚士連携推進会議が発足しました。この組織は、介護予防事業のなかでリハビリテーション専門職（以下、リハ職）が求められる役割を果たすことができるように支援するための組織で、ここでは皆さんの実力にさらに磨きをかけ、地域ニーズに応えられるようにするための研修事業等を行います。

当然ながら、背景には「少子高齢社会」が今そこにあるという事実によってもたらされたことですので、まずは少子高齢社会について考えてみましょう。

恐らく、皆さんは「2025年問題」という言葉をよく聞いていると思います。2025年には、俗に「団塊の世代」と呼ばれる方々が全員後期高齢者になってしまう、ということで起こってくる問題が「2025年問題」で、今、社会はその対応に向けて動いています。厚労省の高齢者人口の見通しによれば、2025年、65歳以上の人口は3,657万人となり、高齢化率では30.3%、人口の3人に1人が65歳以上となり、そのうちの2,179万人が75歳以上となります。人口比にすると18.1%、約5人に1人が75歳以上ということになります。

同じく厚労省の介護人材需給推計によれば、2025年の需要253万人に対し、供給は215万人となり、38万人の介護人材が不足することになっています。千葉県については、2025年の介護人材充足率80.3%となり、需給ギャップは22,755人の不足となっております。

この数字からは、2025年は大変だということとは感じられても、具体的な状況は想像しにくいかもしれません。しかし、リハ職の仕事の仕方も変わっているであろう、ということは確実な気がしております。介護認定を受け、サービスを受けるようになる方々の原因疾患は脳血管疾患が第一位ですので、回復期リハ病院等から地域に帰る、あるいは次の居場所に行くにしても、介護人材が不足しているのです、受け入れられません、ということだって起きているかもしれません。



そのようなことは回避したいと考えるのは当然のことで、今、注目されているのは要支援の方々、あるいは、要支援の一手手前にいる方々が、自らのことは自らでできるという生活を維持していけるようにするには、どのようにすればいいのか、ということが求められています。そのなかで、厚労省はリハビリの職能団体に、その解決策を提供し、それを担っていくという役割を持ってもらうという考え方を示しています。

このような時代状況のなかで、好むと好まざるとにかかわらず、今の仕事のほかに、アウトリーチをやってほしい、認知症当事者や家族の支援を行って欲しい、という声が言語聴覚士にかかるはずです。さて、その時、あなたはどのようなのでしょうか。

今回、発足した千葉県理学療法士・作業療法士・言語聴覚士連携推進会議は、このような2025年問題に対応できるリハ職を育てるための組織、いわばプラットフォームです。ここでは、三つの県士会が力を合わせ、2025年問題にむけたリハ職からの提案、活動を提供していく予定です。もしかしたら、リハ職が少ないエリアに応援にいくようなことだってあるかもしれませんし、家庭の事情で業務から離れていたが、社会の役に立ちたいと思っている方や、地域に貢献したいという思いを温めていた方にも、出番を提供することができるようになります。

会員の皆さん、力を合わせ、リハ職としての新たなアイデンティティを確立し、どのような障害を抱えていようとも、目標をもって生きていける千葉県を一緒に作っていきましょう。



◇ 学術局より ◇

学術局 酒井 譲

1. 平成28年度第1回研修会のお知らせ

今回は、講師に化学療法研究所付属病院リハビリテーション科部長の 武原 格 先生をお招きして「脳損傷者の自動車運転再開支援」をテーマにご講演いただきます。

また、講演会後には新入会員をお迎えし、懇親会を開催いたします。日頃の臨床に関する情報交換はもちろん、皆様におかれましても楽しく有意義な時間になりますことを願っております。会員の皆様はもちろん、会員外の方へもお誘い合わせの上、ご参加ください。

＊日時：平成28年5月29日（日） 14：15～16：40

＊会場：千葉市文化センター 9階 会議室Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

＊内容

Ⅰ. 講演 [14：15～15：45]

「脳損傷者の自動車運転再開支援」

講師：化学療法研究所付属病院 リハビリテーション科 部長 武原 格 先生

Ⅱ. 懇親会 [15：50～16：40]

＊申し込み方法：詳しくは同封の申込書をご覧ください

2. 第2回研修会報告

平成28年1月24日（日）に順天堂大学医学部附属浦安病院で第2回研修会を開催しました。今回は、嚥下障害をテーマに症例検討会を行いました。参加者は40名（会員34名、会員外6名）でした。その後、発表者と講師を交え、日頃の臨床の悩みを共有しあう情報交換会を行いました。研修会の概要と、アンケート結果の一部を紹介します。

研修会の概要

演題：「食べるために胃瘻造設を決意した症例 ～胃瘻と倫理を考えて～」

発表者：袖ヶ浦さつき台病院 齋藤 久美子 先生

概要：入院時は食事摂取できていたものの、嚥下機能や精神面の低下から経管栄養となり、そして胃瘻造設を決断され、その後食べる意欲が向上した症例についてご報告いただきました。症例は60歳代女性、右被殻出血を呈し、既往歴にバセドウ病、左頭頂葉出血のある方でした。入院3週間後、脱水傾向、体重の減少、摂食嚥下障害を認め、意欲の低下がみられました。そのため、カンファレンスにて胃瘻造設となりました。現在はチームアプローチを行った事で、経口摂取と胃瘻を併用し楽しく食べて質の良い生活を送っております。臨床倫理4分割法を用いて後方視的に検討し、発表されました。また、症例報告後、誤嚥性肺炎の原因や嚥下機能の評価についてなど、活発な質疑応答が行われました。

演題：「廃用性嚥下障害に対して多職種で関わることで3食経管栄養法から3食経口自力摂取が可能となった症例」

発表者：船橋市立リハビリテーション病院 小松 夏希 先生

概要：廃用症候群によりADL全介助、及び摂食嚥下機能障害を呈した症例についてご報告いただきました。症例は70代男性、経鼻経管栄養の方でした。口腔ケアや嚥下内視鏡検査・嚥下造影剤検査を実施し、早期から直接訓練を開始しました。食事内容の質的負荷だけでなく、多職種連携のもと必要栄養量や必要水分量に合わせて、食事回数及び飲水回数の増加といった量的負荷をかけていきました。また、廃用による摂食嚥下障害に対しては、嚥下機能のみならず、全身状態の改善に向けた関わりが必要だということを発表していただきました。また、症例報告後の質疑応答では、胃瘻造設しなかった理由や、急性期で行ってほしいことなど、活発な意見交換が行われました。

助言者・講師：聖隷佐倉市民病院 耳鼻咽喉科 部長 津田 豪太 先生

演題：「チームで対応する嚥下治療」

ご講義をはじめめる前に助言者のお立場から、齋藤先生には「胃瘻造設の時期」「カロリーと運動負荷」に関して、小松先生には「廃用症候群とMETs」「急性期での栄養方法の検討」に関してのご助言をいただきました。その後の講演では、「チーム医療を始めた理由」、「今までの嚥下チームとこれから」、「嚥下障害への外科的治療」、「嚥下チームを作るためには」についてチーム医療の大切さ、口から食べることの意義について、今までのご経験を踏まえ、ご講演くださいました。また、外科的治療の適応や方法についても写真を提示していただき、詳しくそしてわかりやすくご講演くださいました。講演後、多くの先生方から質問があり、時間いっぱいに応答され、大変有益な機会となりました。

3. アンケート結果

① 研修会に参加しての感想（回収：28名）

とても良かった 27名、ふつう 1名、期待していた内容と異なった 0名

具体的に：

- ・津田先生の講演はとても興味深く、勉強になりました。
- ・症例発表も臨床に適しており、身近な例で非常に勉強になりました。
- ・津田先生のお話でSTの役割を再確認できました。
- ・嚥下を専門にしている耳鼻科の先生からの講演は貴重でおもしろかったです。具体的なチーム医療の話もためになりました。

② 今後の研修会や当会の活動について、ご意見等がありましたらお書きください。

（複数回答可）

形式：講演28名、症例発表22名、シンポジウム4名、グループワーク2名、相談会3名、領域ごとの研修会8名

内容：失語症19名、高次脳機能障害16名、摂食・嚥下障害18名、音声・構音障害9名、吃音2名、認知症9名、職場の悩み相談4名、子育てとの両立について2名、復職について2名、接遇やマナー等1名、その他1名（栄養）

具体的に：

- ・今回のような形が良いかと思います。
- ・介護保険関連など（例：経口維持、経口移行加算の現状など）
- ・会員外の会費が少し高く感じました。

4. 学術局より＜研修会を終えて＞

今回の研修会は、症例検討会と情報交換会を行いました。発表者のお二人、講師の津田先生、ありがとうございました。また、当日は3社の業者展示がありました。参加者は嚥下食を試食するなど、業者の方と意見交換をし、大変盛り上がっていました。参加いただきました皆様、ありがとうございました。皆様の臨床の一助になりますようお願いしております。

5. ※研修会の症例発表者募集※

来年度の研修会での症例発表者を募集しております。日頃の臨床で悩んでいる症例などありましたら、是非ご検討ください。皆様の積極的な提案をお待ちしています。詳しくは当会ホームページにお問い合わせください。

6. 「地域の勉強会」での症例検討会に参加しませんか？

会員の皆様のご協力により、各地域で勉強会が開催されています。ホームページの「小児多職種合同勉強会」、「地域勉強会」をご参照の上ご参加ください。

◎◎◎生涯学習プログラム作業部会◎◎◎

平成27年度 生涯学習プログラム基礎講座・専門講座千葉県版を実施！

今年度の講座は、平成27年12月6日・20日に千葉市文化センターで行いました。

基礎講座は日本言語聴覚士協会が設定した6講座と当会が独自で企画した1講座（「言語聴覚士に求められる資質とは」小嶋 知幸先生）の合計7講座、専門講座は1講座（「臨床実習 - スーパービジョンと指導技法 - 国際医療福祉大学大学院 医療福祉学 研究科 藤田 郁代先生」）の講義でした。なお、今年度も基礎講座の講師は千葉県内で活躍されている言語聴覚士の方々に担当していただきました。

藤田先生の講義は、STを教育し養成する立場から実習生指導の原則やフィードバックの仕方などを丁寧に解説していただきました。我々現場のSTが「実習生に対してどのようなことを教育し、提供できるか」という疑問や不安が解消できるような講義でした。

基礎講座は各講座とも熱心な受講者が多く、また講師の先生も熱意のある丁寧な講義を展開していただきました。まだ経験の浅い言語聴覚士の皆様が、臨床の基礎的な知識や心構えを学ぶ場としては最適な研修会です。

参加者は69名で、7割は県内から3割は県外からの参加の方々でした。

来年度は平成28年11月20日（日）、23日（水・祝）基礎講座・専門講座を実施することが決定しています。なお、会場は昨年度までの千葉市民会館となります。

また、認定言語聴覚士の受講資格（専門講座終了者）にも関わっております。

是非、皆様の参加をお待ちしております。



藤田先生の講義風景

（齊藤 公人）

◎◎◎認知症専門職研修報告◎◎◎

第2回認知症専門職研修（基礎コース）が開催されました

平成27年11月28～29日、八千代リハビリテーション学院にて、認知症専門職研修の基礎コースが開催されました。この研修は、3士会協同で企画・運営をしており、近年の認知症対策の一環である認知症コーディネーターの育成や、認知症に対応できる技術をもった認知症リハビリテーションリーダーの育成を目的に立ち上げられました。

一昨年のモデル事業から始まり（参加者：約100名）、昨年は上級コースを企画しましたが、申込は数名とふるわず、開催に至ることができませんでした。その反省をふまえ、今回は認知症に対する裾野を広げる事を目的に講義内容を一新し、基礎コースのみの開催としました。その結果なのか、定員50名のところ、97名（OT56名、PT32名、ST9名）の応募がありました。講義内容は、高齢者の身体特性、認知症状の理解、認知症の嚥下障害などの基礎知識から、県の施策や地域の現状、認知症家族の会の代表の方からの講義など多岐にわたり、密度の濃い2日間であったように思います。アンケートも概ね好評で、応用コースの開催を希望する意見が多くみられました。来年度については、基礎コースを継続するか応用コースのみの開催とするか、もしくは両方の開催とするか検討中です。

今後さらに加速する高齢化に向けて、認知症の知識の向上、認知症リハビリテーションの発展は大きな課題となることと思います。この研修が皆様の臨床の一助となれば幸いです。今後も多くの方のご参加をお待ちしております。

（東邦大学医療センター佐倉病院 治田寛之）

◎◎◎聴覚障害委員会及び小児言語障害委員会◎◎◎

合同研修会・情報交換会報告

聴覚障害委員会と言語障害委員会は合同で11月15日、千葉市療育センターにて研修会と情報交換会を開催致しました。最初に君津中央病院の金子義信先生より「ことばの遅れから軽度難聴が発見された症例」というテーマでの症例報告を受けて参加者でグループワークを行い、続いて千葉市療育センターやまびこルームの高橋典子先生より「軽～中等度難聴児の療育を考える」というテーマで講義をしていただきました。小児領域の内容というだけでなく、聴覚障害を中心とした、より専門的かつ実地的な研修となり、幅広い地域や施設（病院、療育機関、保育所、小学校、訪問看護ステーション）から23名のSTと教員の参加がありました。日頃からなかなか経験を重ねられなかった聴覚障害の療育について学ぶことができました。研修会後に千葉県内の「小児療育の施設に関する調査」を行ったアンケートの結果報告と、情報交換会が行われ、施設毎に異なる条件や変化していく職場環境に対しての意見が交わされました。

症例検討では、金子先生から対象児の初期の評価から具体的な訓練プログラム、現状までの丁寧な分析と経過の報告があり、グループワークでの討議へスムーズに移行できました。そしてグループワークでは、必要な検査を含む目標設定、視覚的手掛かりを取り入れた課題内容、補聴器装用についての助言方法について、経験のあるSTからも具体的な提案があり、聴覚障害に関して経験の浅いSTにとっては新しい気づきとなり、有意義な討議となりました。

講義では、高橋先生より、軽～中等度難聴児は補聴器を装用すれば言葉が出てくることから、一見問題

が軽いと思われがちだが、「子音部分がよく聞こえない」「周囲がうるさいと聞こえない」等、特有の問題があるため、早期に発見し、補聴器を着けて療育を行うことが重要であると説明されました。また、軽～中等度難聴児の療育は、補聴器の使用による聴覚活用（読話を併用）で言語獲得を促す指導が基本だが、実際の生活場面（家庭や集団など）では、100%聞き取ることはできないため、軽～中等度難聴児が、聞こえる人の中でいつも不安な状況にいることを十分認識し、心理的問題にも対応することが必要と講義されました。

情報交換会では、業務時間の制限や人材と個別訓練室の確保の厳しさ、医療現場で求められる単位数や一回指導時間の報告がされ、時間確保のための対策として、マニュアル化の推進、書類の簡略化、教材作成のボランティア活用方法など、されている内容が具体的に提供されました。その他、所属するSTの研修条件、STの教育やST部門の開設、訪問診療についての悩みとその対策についても話し合うことができました。

今回の合同研修会・情報交換会を開催し、改めて聴覚障害や小児療育に関わるST全体としての課題を感じることができ、STの教育や診療・指導の条件といったそれぞれのSTや施設に対する今後の具体的な支援を考えていく上で、来年度以降に計画が検討されている当会からの情報提供の内容や支援活動にもつながる内容となりました。

<アンケート結果>

研修内容について、〔よく理解できた〕〔だいたい理解できた〕がほとんどで、〔難しかった〕はありませんでした。「難聴についての講義を聴く機会はとても貴重で、勉強になった」などの感想が挙がりました。情報交換会については、〔良かった〕20名〔未記入〕2名でした。「悩みを共有できる場、相談できる場としてありがたいので、毎年続けていただきたい」などの感想が挙がりました。小児・聴覚2つの委員会合同での研修会開催について、〔良かった〕20名〔普通〕2名でした。「聴覚はあまりふれることがないが、今回参加して非常に大切で取り組まなくてはいけないと思った」との感想が挙がりました。今後の研修会で希望する内容はASD、言語発達障害、学習障害、ADHDが多く挙がりました。

◎◎◎第10回リハビリテーション公開講座のご案内◎◎◎

日 時：平成28年7月18日（月祝）13時00分～16時30分

会 場：市原市勤労会館（you ホール）多目的ホール 他 （市原市更級5-1）

内 容：医師による基調講演と、PT・OT・ST士会による介護予防体験コーナー

今回は本会が幹事団体として開催します。体験コーナーでは『肺炎を予防しよう～あなたの嚥下力は？～』をテーマに、一般市民の方々に口腔機能や嚥下機能の評価を体験して頂く予定です。詳細はホームページ等でお知らせします。当日お手伝い頂けるスタッフも募集中です。当会メール宛てにぜひご連絡ください。



施 設 紹 介



市川リハビリテーション病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 篠塚 鍛男

当院は「市川市に寝たきりの人をつくらない」という基本理念の下に、平成 10 年にリハビリテーション専門病院として開設し、18 年が経過しました。松戸市、鎌ヶ谷市、船橋市と接する、市川市北部（の市境）に位置し、最寄り駅は JR 武蔵野線市川大野駅です。

病床数は 100 床で回復期リハビリテーション病棟が 2 病棟、診療科目はリハビリテーション科、内科・消化器科、整形外科、歯科の 4 科があり、外来・入院に対応しています。主な入院疾患は脳血管疾患・整形外科疾患で、近年は廃用症候群も増加傾向です。60 代～70 代の市川市在住の方を中心に近隣都市の方々にも入院・通院していただいています。

リハビリテーション部は、PT28 人、OT14 人、ST4 人、CP(臨床心理士)1 人、MSW3 人の 5 職種 50 人のスタッフで構成されており、患者さんに対してチームとなってリハビリテーションを提供しています。ST は失語症・構音障害・嚥下障害の患者さんを中心にリハビリを行っています。最近では嚥下障害の患者さんが多く、食形態や栄養内容を歯科・栄養科などのコメディカルと協力して調整し退院へ繋げています。またバルーンや間欠的口腔食道経管栄養の患者さん等も入院だけでなく、外来フォローしながら在宅生活へ繋げています。

ST が少人数の職場ですが、何かお役に立てることがありましたら、ご連絡を下さい。

浅井病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 小川 剛史

当院は、地域に開かれた病院として、先駆的かつ積極的な精神医療を東金市で展開しています。精神科病棟 374 床・地域包括ケア病棟 51 床・内科療養病床 36 床の 461 床で運営しており、今年で開設 57 年目を迎えました。

統合失調症やうつ病等の患者さんの他に、周辺地域の高齢化に伴い、脳血管障害や肺炎、運動器不安定症等の整形外科疾患の患者さんも増加しており、昨今は幅広い医療を提供しています。また、2012 年には県より認知症疾患医療センターの指名を受け、社会的な問題となっている認知症ケアのサポートも行っています。

私が所属する身障リハビリテーション科は、PT8 名、OT4 名、ST3 名、リハ助手 1 名が在籍しています。ST も入院リハ・外来リハ・訪問リハにて失語症、高次脳機能障害、構音障害、嚥下障害の患者さんに介入していますが、高齢化に伴い、脳血管障害よりも嚥下障害の患者さんと関わる事が多くなりました。

年々、多様化するニーズに応える為に、昨年 6 月より ST を専従スタッフとした地域包括ケア病棟をスタートさせました。病棟では、患者さんの能力に合わせた個別リハや ADL 低下防止目的のポイント・オブ・ケア、PT・OT・ST が病棟スタッフと共に集団交流リハ等に取り組んでいます。また、入院初日の嚥下評価を心掛けており、栄養科と連携しながら個々の患者さんに適した食事を提供出来るよう努めています。退院後、介護リハビリが必要な場合は、グループ内の老人保健施設に在籍する ST と相談・連携を図りながら患者さんを支援しています。これからも地域と共に歩み、社会に貢献出来る浅井グループを目指していきたいと思ひます。

〒283-8650 千葉県東金市家徳 38-1 TEL : 0475-58-1415

臨床こぼれ話

★★★臨床への興味を持続させるためには？★★★

防衛医科大学校耳鼻咽喉科学講座

助教 谷合 信一

私は現在、埼玉県所沢市にある防衛医科大学校耳鼻咽喉科学講座に勤務しています。西武新宿線の航空公園駅を降りてすぐの場所にあり、STの先生方には、「国リハの隣」というとすぐにわかるかもしれません。そこでST一人で勤務しています。主に頭頸部癌の嚥下障害と音声障害の臨床に携わっていますが、最近、人工内耳の臨床も始まりました。

人間の活動を持続させるためには、モチベーションが大切であることは言うまでもありません。おそらくみなさんも患者さん・対象者の方のモチベーションを維持させるのに苦労することは多いのではないのでしょうか。それは、我々言語聴覚士自身についてもいえます。日々の忙しい業務に流され、あるいはノルマに追われ、あるいは人間関係に悩み・・・、など苦労は絶えません。

私は若いころ心がけていたことに、なるべく学会に参加して、外からの刺激を入れようと考えていました。新人の時に就職した職場が一人職場の開設であったこともあり、自己研鑽の一環として学会に積極的に参加していました。現在は演題を出すことが珍しくありませんが、その当時は参加するだけで精一杯。それでも、様々な発表や講演を聞くと自分の日々の臨床を振り返るきっかけとなり、こんなことを発表していた！ あんなことがとても参考になる！ と次へのパワーをもらい、自分の病院に戻ってから頑張ることが出来ていたな—と思っています。

もちろん旅好きの自分としては、学会への移動の道中も楽しんでいました。また、全国各地で学会は開かれますので、その土地の美味しいものを食べたり、ちょっと学会会場を抜け出して歴史の勉強をしたり…というのも楽しいことです。

今もいくつかの学会に定期的に参加しています。最近、演題を出すことも多くなっており、新人のころ学会に参加していた時と状況は異なります。自分の新人の頃のことをふと思い出してみると、日々の臨床に無我夢中で取り組んでいたなと思いだされると同時に、学会に参加して得ていた感動や新鮮な驚きを最近忘れてはいないか…と自問自答しています。しかし、またST一人職場で働いている現状では、学会で受ける刺激はとても勉強になり、発表後の質疑応答でフロアから指摘されることは、自分の臨床・研究に非常に役に立っています。

というわけで、学会に参加しませんか！ 当科が主管で行われます第40回日本嚥下医学会総会ならびに学術講演会が2017年2月24-25日、学術総合センターで行われます。耳鼻咽喉科医の参加が多い学会ですが、私が事務局に入っていることもあり、ST向けの内容も入れようと思っています。都内で開催ということもあり千葉から近いので、ぜひご参加いただければと思います。プログラム等の詳細は、適宜ホームページにアップされますので、チェックして頂けると幸いです。よろしくお願いいたします。

三三 きこえに関するひとくちコラム 三三

ASSR (聴性定常反応)

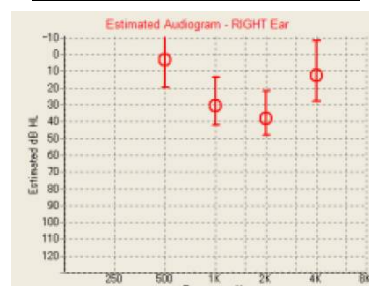
この検査は他覚的聴力検査の一つです。自覚的聴力検査には標準純音聴力検査や遊戯聴力検査などがあり、被験者は聞こえたらボタンを押すなどの意思表示が必要になりますが、この検査は被験者の応答を必要としません。

【検査内容・方法・結果】 電極を前額部・後頸部・眉間につけ、脳波の中に生じる音刺激の反応を得ます。被験者は睡眠下にて実施されます。音刺激は一般的に 500、1000、2000、4000Hz が用いられます。そのため、図のように低～高音域に至る聴力を左右別に測定することができ、おおよその聴力像を推定するのに効果的です。結果の閾値には幅があるため、解釈に注意が必要です。

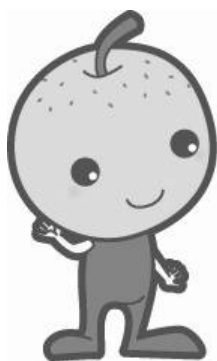
【臨床応用】 新生児聴覚スクリーニング検査後の精査や乳幼児期の補聴器フィッティング、自覚的聴力検査の信頼性が低い方（重複障害や発達障害など）の聴力測定、機能性・心因性難聴や詐聴の判定などに用いられます。新生児期～成人まで実施可能です。

ASSR のみでなく、ABR（聴性脳幹反応）や自覚的聴力検査も含め、複数の検査を用い、耳鼻科所見も含め、総合的に評価をすることが重要です。

ASSR の結果の一例(右耳)



～聴覚障害委員会～



◇ 各委員会・作業部会から ◇

◎◎◎職能部◎◎◎

ワーク&ライフバランスコラム ～仕事と〇〇の両立～

職能部では「ワーク&ライフバランスコラム」と題しまして、前号（ニュース No 49）より仕事と家庭（子育て）や趣味等の両立に関するコラムを掲載しております。

皆さんの「仕事と〇〇の両立」をお聞かせください！

「失敗から学んだ私なりの両立」

富里市簡易マザーズホーム

高田 麻衣子

私はもうすぐSTになって9年目になります。振り返ってみると、周囲の人に支えられてここまで来たと思います。平成25年度に産休、育休を頂き、平成26年4月に復帰し、仕事と家事と育児をしっかりと両立して…とうまうはいきませんでした。

私が復帰したのは子どもが9か月の時でした。実家の両親の言葉に甘え、日中は預かってもらっていました。現在も保育園の入園許可を待ちながら一時保育を利用して、それ以外の日は実家で見てもらっています。

私が両立ということが一番考えさせられた時期は、復帰した平成26年度の年度末でした。子どものことは両親に世話になりながら、仕事と家事を復帰する前と同じようにこなそうとしていた私は、体調を崩してしまいました。職場に迷惑をかけてしまった事や、自分のふがいなさに泣きました。

そのことがあってから、どう時間を使うか、自分の出来る範囲はどこまでか考えるようになりました。主人は残業が多く、平日はなかなか家事を手伝ってもらえる状況ではなかったので、自分の出来る範囲を探りつつ、特に家事では「出来ないところは出来なくてもいい！」と思うようにしました。おかずが一品減ってもいい、スーパーのお惣菜が並ぶ日もあるし、部屋の隅にホコリがあっても今日は無理、と自分の出来る範囲でやりました。しっかりと両立は出来ませんでした、自分なりに両立出来るようになってきたと思います。子どもと関わる時間も作る事が出来るようになり、今ではとんでもないママっ子に成長中です。以前より余裕が持て、色々なことが楽しめるようになりました。決していい奥さんではありませんが…。

もうすぐ4月、色々な環境の変化があり、皆さんも仕事との両立について考えることがあると思います。仕事や家事、子育て、趣味など…頑張りすぎない自分なりの両立を見つけてくださいね。

◎◎◎災害リハビリテーション委員会◎◎◎

「C-RAT 研修会に参加して」

災害リハビリテーション委員会 栗林 真里

1月16日に開催された第1回千葉県災害リハビリテーション支援関連団体協議会（C-RAT）研修会に参加させて頂きました。昨年9月10日に発生した関東・東北豪雨の際に、茨城 JRAT の一員として実際に活動された茨城県 PT 士会長 斉藤 秀之 先生のお話をお伺いする中で、いくつかの大切な点に気付かせて貰いました。まず、災害の支援体制についてです。災害時の騒然とした状況の中で、誰がどのような手順で支援を行なっていくのかを事前に検討していく必要があると感じました。これは、医療スタッフの中だけで留めるのではなく、地域の住民の皆様にも必要な情報を発信し、共有していくことも必要だと思います。次に、発災直後から災害リハビリテーション支援を行っていく中で、介入当初から支援の終了時期の見通しを立てた方が良いということです。出来るだけ発災前の生活に近い形で生活が営めるように、既存の地域のサービスを活用し支援を進めていくことが大切です。いつまでも支援が長続きしてしまうことで、その地域自体がもつ自主的な回復力を削ぐ結果となりえません。その為にも、どの程度まで状況が改善したら支援を終了するという時期の見立ての重要性を感じました。この考え方は、私たちが日々提供しているリハビリテーションにおける考え方とも非常に良く共通していると思います。

現在、当会におきましても災害リハビリテーション委員会が設立されており、今回の講演を参考にさせて頂き、災害の備え・災害時に私たちが出来ることについて更なる検討を重ねていきたいと考えています。

◇ 事務局より ◇

1. 入会のお誘い

当会に入会されていない方は、ぜひご入会くださるようお願い申し上げます。入会ご希望の方は、ホームページにても入会方法をご案内申し上げますのでご覧ください。また、お近くに未入会の言語聴覚士の方がいらっしゃいましたら、入会をお勧めくださいますようお願い申し上げます。

2. 迷子が増えています ～ 変更届についてのお願い ～

最近、迷子になって戻ってくる発送物が増えています。お手数ですが、氏名、住所や勤務先などに変更があるときは、速やかにご連絡くださいますようお願いいたします。変更届の様式は会のホームページよりダウンロードすることができます。ご記入の上、事務所へ郵送やFAXにてお届けください。また、変更届に限ってメールによる受付をしております。会からの情報がみなさまのお手元に無事届きますよう、ご協力お願いいたします。

3. 新入会員のお知らせ（敬称略）

会員数：正会員 389 名・準会員 21 名・賛助会員：7 団体

（平成 28 年 2 月 21 日 理事会承認分まで）

・・・正会員・・・

屋比久 昌太（セコメディック病院）

中村 愛（さかいリハ訪問看護ステーション西船橋）

三浦 麗（千葉市療育センター）

清宮 悠人（筑波メディカルセンター）

森本 麻希子（柏戸病院）

田原 友美（らいおんハート遊びリテーション児童デイサービス）

村上 由佳（らいおんハート遊びリテーション児童デイサービス）

城竹 美幸（千葉東病院）

藤井 友美（草加市立病院）

山本 美琴子（亀田総合病院）

齋藤 愛美（長谷川病院）

雨宮 将洋（森山リハビリテーション病院）

松野 友美（市川市リハビリテーション病院）

逸見 七瀬（佐倉厚生園病院）

（届出順）

年会費納入のお願い

＊当会の年会費は前納制となっております。皆様のご協力を宜しくお願い致します。

正会員 3500 円

準会員 3000 円

賛助会員 1 口 5000 円（個人 1 口以上、団体 2 口以上でお願いします）

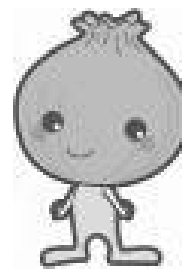
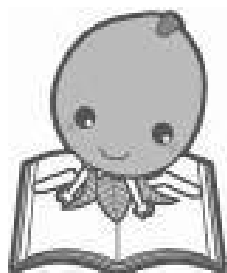
未納分について

＊本年度は未納ゼロをめざします。平成 25 年度・26 年度・27 年度分の年会費のお支払いがお済みでない場合、期日を過ぎておりますので、未納分を合計した金額にてお早めにお支払いください。

本会の規則により、2 年以上会費未納の場合は退会とみなされますのでご注意ください。

なお、退会後も未納分は徴収させていただきます。（例：正会員の場合：3500 円×2＝7000 円）

納入済かどうかご不明な場合や、その他年会費に関するご質問がございましたら、当会メールもしくは下記までご連絡下さい。



◇◇お支払い方法◇◇

1) ゆうちょ銀行および他の金融機関からのお振込み

◇ゆうちょ銀行からのお振込の場合

払込取扱票に氏名、住所、金額をご記入の上で下記宛にお振込ください

(記号番号) 00120-6-39932

(加入者名) 一般社団法人千葉県言語聴覚士会

◇ゆうちょ銀行以外の金融機関からのお振込の場合

(銀行名) ゆうちょ銀行 (金融機関コード) 9900 (店番) 019

(店名) 〇一九 (ゼロイチキュー店)

(預金種目) 当座 (口座番号) 0039932

(受取人名) イッパンシャダンハウジン チバケンゲンゴチョウカクシカイ

2) ゆうちょ銀行口座からの自動引落とし

お手続きについては、当会ホームページをご覧ください。

《年会費に関するお問合せ先》

東邦大学医療センター佐倉病院 リハビリテーション部

治田 (はるた) 寛之 043-462-8811 (代)

◇ 理事会・委員会等議事録 ◇

◆ 平成27年度 理事会

《第9回》

日時：2015年11月8日(日) 13時00分～15時45分 場所：黒砂公民館 会議室

出席者：吉田、阿部、岩本、小野、金子、酒井、平山、宮崎(理事8名)、宇野(監事1名)、星野直(書記1名)

1. 協議事項：・各部・各局の議事録の承認について ・新入会員・退会者について ・ニュース49号について ・県士会会長会議について ・摂食嚥下関連ガイドラインについて ・県地域リハ支援体制の在り方に関する報告書について ・中高生向け吃音支援組織立ち上げの報告について ・生涯学習プログラムからの報告について
2. 報告事項：・年賀状について ・千葉県理学療法士・作業療法士・言語聴覚士連携推進会議の旗揚げ講演会について ・郵便物回覧

《第10回》

日時：2015年12月23日(水) 13時00分～16時30分 場所：黒砂公民館 会議室

出席者：吉田、阿部、岩本、小野、金子、酒井、治田、平山、宮崎(理事9名)、井上(書記1名)

1. 協議事項：・各部・各局の議事録の承認について ・新入会員・退会者について ・千葉県理学療法士・作業療法士・言語聴覚士連携推進会議発足集会について ・DVD研修について ・平成28年度総会について ・年賀状について ・第2回研修会申込状況について ・生涯学習プログラムからの報告について ・認知症専門職研修の報告について ・高次脳機能障害委員会主催統計研修会について ・摂食嚥下ガイドライン一覧の依頼について ・千葉県摂食嚥下ネットワーク

ク（仮）について ・平成28年度第2回研修会講師について ・後援依頼について

2. 報告事項：・千葉県医師会主催講演会について ・千葉県介護保険関係団体協議会研修会について ・郵便物回覧

《第11回》

日時：2016年1月17日（日）13時00分～15時30分 場所：黒砂公民館 会議室

出席者：吉田、岩本、小野、金子、酒井、治田、平山、宮崎（理事8名）、宮下（監事1名）、宮坂（書記1名）

1. 協議事項：・各部・各局の議事録の承認について ・新入会員・退会者について ・千葉県理学療法士・作業療法士・言語聴覚士連携推進会議について ・千葉県災害リハビリテーション支援関連団体協議会（C-RAT）について ・ニュースNo50構成案について ・地域リハビリテーション部会の検討課題について ・平成27年度第2回研修会について ・平成28年度第1回研修会について ・平成28年度第2回研修会について ・平成28年度総会について

2. 報告事項：・郵便物回覧

《第12回》

日時：2016年2月21日（日）13時00分～16時30分 場所：黒砂公民館 会議室

出席者：吉田、阿部、岩本、小野、金子、酒井、治田、宮崎（理事8名）、宇野（監事1名）、星野（書記1名）

1. 協議事項：・各部・各局の議事録の承認について ・新入会員・退会者について ・千葉県PT・OT・ST連携推進会議の規約承認について ・千葉県PT・OT・ST連携推進会議に関する予算について ・総会について ・平成28年度生活期リハ実行委員会について ・報告集同封資料について ・平成27年度第2回研修会アンケート結果について ・千葉県摂食嚥下ネットワークについて ・平成27年度第1回千葉県地域リハビリテーション協議会について ・地域リハ人材育成について ・来年度予算について ・千葉市リハビリ職とケアマネージャーの合同研修会について

2. 報告事項：・郵便物回覧

◆ 平成27年度 学術局会議

《第3回》日時：2015年11月8日（日）10時00分～12時00分

場所：プラザ菜の花サークル室A

出席者：小野、神作、酒井、志賀、嶋田、関口、露崎

欠席者：原田

・日本言語聴覚士協会平成27年度第2回全国研修会反省 ・第2回研修会開催について
・平成28年度第1回研修会について ・今後の予定

《第4回》日時：2016年1月24日（日）17時00分～17時30分

場所：順天堂大学医学部附属浦安病院 外来棟3階講堂

出席者：小野、神作、酒井、志賀、嶋田、関口、露崎

欠席者：原田

・第2回研修会反省 ・今年度反省・次年度計画作成 ・報告集作成 ・今後の予定

◆ 平成27年度 職能部会議

《第2回》日時：2015年12月12日（日）10時00分～12時00分 場所：黒砂公民館

出席者：鈴木（三）、渡邊、徳山、宮崎、金子

欠席者：宮内、高田、小杉

・「ワークアンドライフバランスコラム」について ・職場見学会の実施について

◆ 平成27年度 摂食嚥下委員会

《第3回》日時：2016年1月18日（日）16時30分～17時30分 場所：順天堂大学医学部附属浦安病院外来棟
3階講堂

出席者：酒井、相樂、田中、林

・平成27年度第2回研修会反省について ・今年度反省、次年度計画案について

◆ 平成27年度 聴覚障害委員会

《第4回》日時：2015年11月1日（日）10時00分～11時00分 場所：千葉市療育センター

出席者：常田、黒谷、大壺、高橋、吉田

・合同研修会について

《第5回》日時：2016年1月17日（日）10時00分～12時00分 場所：菜の花プラザ

出席者：常田、黒谷、大壺、高橋、吉田

・平成27年度活動報告、コラム、平成28年度の活動計画について

◆ 平成27年度 災害リハビリテーション委員会

《第3回》日時：2016年1月24日（日）9時30分～11時15分 場所：ドトール 常盤平店

出席者：栗林、野口、平山、渡辺

・有用な情報サイトのホームページ掲載について ・C-RATについて ・県士会ニュースコラム掲載について
・災害フェーズに応じたST士会としての活動案について

◆ 平成27年度 第9回リハビリテーション公開講座実行委員会

《第6回》日時：2015年12月2日（水）19時00分～21時00分 場所：千葉県理学療法士会事務所

出席者：岩本、神作、古川 千葉県理学療法士会2名 千葉県作業療法士会3名

・第9回の反省 ・会計について ・来年度について

◆ 平成28年度 第10回リハビリテーション公開講座実行委員会

《第1回》日時：2016年1月27日（水）19時00分～21時00分 場所：千葉県理学療法士会事務所

出席者：岩本、神作、佐野 千葉県理学療法士会2名 千葉県作業療法士会3名

・実行委員 ・役割分担 ・実施計画 ・ちらし ・会計について

◆ 平成27年度 生涯学習プログラム作業部会

《第2回》日時：2015年11月8日（日）10時00分～10時35分 場所：千葉市療育センター 第三会議室

出席者：斉藤（公）、西本、長尾、鈴木、佐藤、福田、古川、阿部

・講座申込み状況、会計報告 ・当日までの作業確認 ・当日の流れ ・来年度の開催概要

◆ 平成27年度 渉外部 生活期リハビリテーション合同研修会実行委員会

《第7回》日時：2015年10月2日（金）19時00分～21時00分 場所：船橋市市役所 6階 602会議室

出席者：小野、勝又、山崎

・運営について ・備品について

《第8回》日時：2015年11月13日（金）19時00分～21時00分 場所：船橋市中央保健センター 会議室

出席者：小野、勝又、山崎

・運営について ・備品について ・受講証について

《第9回》日時：2016年1月5日（火）19時00分～21時00分 場所：船橋市中央保健センター 会議室

出席者：小野、勝又

欠席者：山崎

・アンケートについて ・会計について ・会議の開催について ・次年度委員について

（紙面の都合上、報告事項と協議事項はまとめて記載しています。）

編集後記

今号の編集作業時（2月末頃）は、我が家で子供全員インフルエンザにかかるというパンデミック状態の中行っておりまして。私の職場では、院内感染予防という観点から「家族内でインフルエンザが出たときは2日間出勤停止！」という施設の方針が2月に出された中での家庭内パンデミック…。結局1週間近く職場から離れてしまいました。自身の体調管理は医療従事者として当然気をつけるべき事ですが、子供の家庭内感染を防ぐのは改めて難しいと感じました。

編集部 平山 淳一



ご協力
お願いします

日本失語症協議会 応援セール

エスコアールの失語症関連製品をご注文の際に日本失語症協議会(03-5335-9756)経由でお申し込みいただくと、特別割引価格でお求めいただけます(個人・法人問わず)。

※請求書等の書類・代金の支払はエスコアールとの直接取引となります。

お問合せ先 日本失語症協議会(☎ 03-5335-9756) エスコアール(☎ 0438-30-3090)

2016年
3月
発売予定

ペンで簡単言語訓練

失語症の
言語訓練に!

ActVoicePen (音声ペン)

アクトボイスペン

自作用シール 100枚付

9,720円

ペン先で絵カードの音声マーク等にタッチすると、絵の名称が発声されます。小型で軽量のため、自宅や病院のベッドサイド等での自習訓練が可能です。弊社のほとんどの絵カード類が音声ペン対応予定です。

ActVoicePenの特長

- 簡単操作** 準備や操作が簡単に行えるので、子どもから高齢者まで誰でも使用できます。
- 速度変更** 簡単操作で発声速度を遅くできます。
- 録音可能** 短い単語はもちろん、長い文や歌も録音でき、自作の絵カードが簡単に作成できます。
- 小型・軽量** 長さ15cm×直径2cm、重さ32gと小型で軽量です。
- 外部接続** イヤホンやスピーカーに接続して音を出せるので、場所を選ばずどこでも使用できます。

ActVoice、ActVoice2をお持ちの方 >> 6,480円で購入可能

ActCardをお持ちの方 >> ActCard対応シールの無償提供

関連商品

3月発売予定 自作用シール 簡単な操作でオリジナル音声を作成 200枚 1,080円

3月下旬発売予定 音声ペン対応 **ActCardイラストシート集 第1巻**(改訂版) A4判 イラスト30枚 / CD-ROM 6,480円

ActCard第1巻300種類のイラストを各シート10種類ずつ印刷してあります。ご購入いただいた機関で、入院や通院される失語症者等に訓練を目的として使用する場合は、個人の方がご自身やご家族の言語訓練のために使用する場合は複写・印刷が可能です。

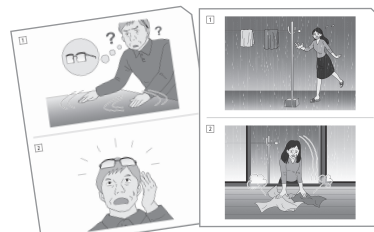
ActCard 連続動作2コマ

125×150mmサイズ 100枚 9,720円

連続絵カードで、より幅広い言語訓練を

簡単なストーリー形式になった2コマの連続絵カードです。

表面はカラーイラスト、裏面には文が記載されています。文は、成人向けの大まかな親密度順に並んでいます。文レベルの様々な訓練にご使用いただけます。



今さらこんなこと質問できない、質問は苦手というあなたへ

言語聴覚療法習得のための 必須基礎知識

編・著：山田弘幸

著：阿部晶子 飯干紀代子 池野雅裕 太田栄次
北風祐子 斉藤吉人 福永真哉 吉村貴子

B5判 360頁 4,860円 電子書籍 3,159円*

本当は理解できていないのに、こんな簡単そうなことを質問するのは恥ずかしいという気持ちから、本来ならすべき質問を見送ってしまった経験はありませんか？本書は、基礎知識に自信がない養成課程の学生や言語聴覚士の方々に、言語聴覚療法に関わる重要基礎事項について、単なる丸暗記ではなく、内容を理解した上で身に付けていただくための学習ツールです。

特長

- 理解できないままに放置していた問題点をきちんと解決することができます。
- 索引や本文中に明記されている参照頁の活用によって、必要な情報を素早く見つけられます。
- 簡潔で平易な記述を心掛け、図表を豊富に用いてわかりやすく解説しています。

※ iBookstoreのみ3,200円での販売になります。

構音(発音)指導のためのイラスト集

企画・監修：加藤正子 竹下圭子

B5判5冊セット 全232頁 7,776円

構音(発音)指導にすぐに役立ちます！「キャリアーバのための構音(発音)絵カード」がイラスト集になりました。短時間でより多くの単語を練習することができ、子どもが思わず呼称したくなるようなイラストを見ながら、構音指導を楽しく進めて頂けます。



株式会社 エスコアール

<http://escor.co.jp>

〒292-0825 千葉県木更津市畑沢 2-36-3

TEL: 0438-30-3090

FAX: 0438-30-3091



● 上記の商品はホームページから送料無料でお求めいただけます。 ● 価格は消費税込です。



水に混ぜるだけ! ゼリーが手軽に作れます。

水分補給に Quick Jelly

クイックゼリー

包装単位: 10g×36



アップル
味



ピーチ
味

「ひとくちめ」から
幅広く
サポートします。

はやい

水100mLに溶かして30秒間混ぜるだけ。
3～5分後にはさわやかなゼリーができて上がります。
水さえあれば、いつでもすぐに、食感のよいゼリーが召し上がれます。

かんたん

加熱や冷却が不要。
外出先でもベッドサイドでも手軽に作れます。
加熱調理や冷却のための時間がかからず、作り置きスペースも省けます。



食べやすい

均質で飲み込みやすいテクスチャー。
離水がなく、温度による変化もほとんどありません。

テクスチャー: 硬さ・付着性・凝集性など
口腔内で知覚される
食品の物理的性質

カプサイシン入りフィルム状食品

マンゴー味

カプサイシンプラス[®]

カプサイシンの力で食事を楽しく!

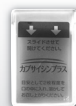
U字の切れ込みが
入っています。

特長

- カプサイシンは、トウガラシ(唐辛子)の成分です。
- 2枚で1.5 μ g(0.75 μ g/枚)のカプサイシンが摂取できます。
- 舌の上ですばやく溶けます。

使用方法

目安として2枚程度を口の中(舌の上)に入れ、
全部溶けたらお食事をお楽しみください。



包装: 24枚×10



販売者

株式会社 三和化学研究所

本社/名古屋市東区東外堀町35番地 〒461-8631

TEL (052) 951-8130 FAX (052) 950-1861

●ホームページ <http://www.skk-net.com/>

入 リオネット補聴器

補聴器のご相談は安心できる

認定補聴器専門店で!!

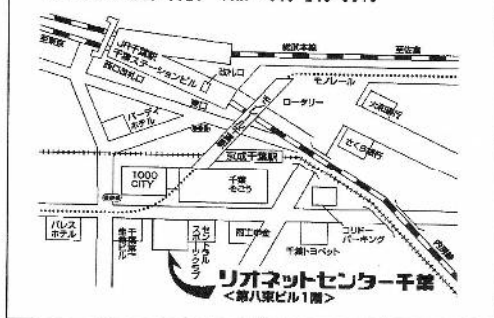
認定補聴器専門店は「認定補聴器技能者」が在籍し、補聴器をお客様の耳に合わせるための設備機器が整い「補聴器の適正供給」の運用がされ「公益財団法人テクノエイド協会」が認定したお店です。つまり経験豊かで専門的な知識と技能を持ったスタッフが、様々な機器を使い、一人ひとりのお客様の聞こえの状態に合った最適な補聴器をご提供します。



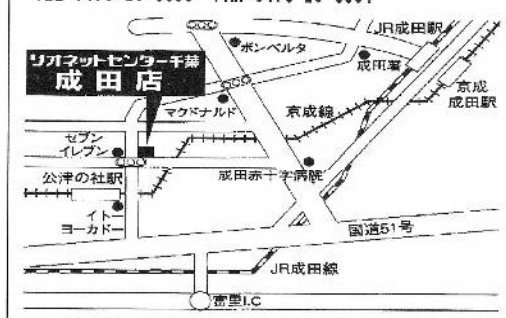
 認定補聴器専門店

リオネットセンター 千葉

千葉店：千葉市中央区新町 18-12
TEL：043-246-3321 FAX：043-246-3319



成田店:成田市公津の杜 1-13-17
TEL:0476-20-6633 FAX:0476-20-6634



発行所:一般社団法人 千葉県言語聴覚士会

發行人:吉田 浩滋

編集人：編集部 平山 淳一

事務局:〒263-0042 千葉県稲毛区黒砂2-6-15 メゾン K102

FAX 043-243-2524

E-mail chibakenshikai@zp.moo.jp

ホームページ: <http://chibakenshikai.moo.jp/> 会員専用パスワード: affordance

印刷:社会就労センター はばたき職業センター